

2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスの意義を理解し、地域生活の維持を念頭に置いた上で、私（地域住民も含む）も利用したいひだまりでありたいとの思いを基盤にした「地域の中のひだまり」としての理念をつくりあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	「わたしも受けたいケア、わたしも利用したい施設、わたしたちはそれを目指します」との理念を職員は共有し、利用者の喜びと地域とのふれあい及び信頼関係を大切にした実践が行われている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の運動会や文化祭、秋祭りにも積極的に参加し、利用者と地元の人々が交流できる機会を持てるように努力している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全ての職員がサービス評価の意義を理解し、評価結果に対しても前向きに改善を図ろうと努力している。		

宮崎県小林市 グループホームひだまり

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は地域包括支援センター職員をはじめ、市職員及び地域住民の意見が聞ける機会、事業所側の相談ができる機会となっている。サービス向上を図るべく、建設的な会議となるよう努力されている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市職員が新任職員を定期的に連れてきたり、ひだまりでの困難ケースをホーム職員が市職員へ相談し改善を図る等、サービス向上へ結びつく良好な関係が築かれている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	写真を多く用いた広報誌が定期的に発行されている。広報誌は、一人ひとり写真を変えるなど個々の家族に合わせた情報誌となっている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	全ての職員がホーム内の情報を共有し、的確に対応すべく準備が整えられている。家族や地域住民から気軽に意見を言ってもらえるようホームの雰囲気づくりにも留意している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	離職者が少なく安定した支援が行われている。また、離職者が発生する場合にも隣接する施設と連携を図り、異動予定の職員を仮勤務させる等の配慮と利用者の安全と安心も考えられた支援となっている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は何でも言える雰囲気づくりを心がけ、なるだけ本人が希望する研修へ行けるように支援する努力がされている。また、隣接する施設との連携も図られトレーニングする機会もある。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地元グループホームの連絡協議会に加盟し、相互研修会を行う等の交流を図っている。地域のネットワークを広げるべく勉強会にも参加し、サービスの質の向上に励んでいる。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前は家族と一緒に見学をしてもらい納得した上でサービス開始を始めている。状況によっては、なじむまで何度か足を運んでもらうこともある。慣れない環境を少しでも改善すべく、これまで使っていた家具類を持ち込んでもらう等の工夫や配慮がある。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	常に感謝の気持ちと、利用者は人生の先輩であるとの意識を職員はもち、普段から利用者一人ひとりを敬う関係を構築している。お互いが協働しながら和やかな生活が送れるように場面づくりや利用者の視点で声かけを行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者が一番望む事は何なのか、話をゆっくりと聞き、本人の願いや暮らし方の希望をできるだけかなえ、願望把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	担当職員を中心とした意見や、家族来訪時に収集する情報を出し合い、介護計画の作成に生かす努力はしているものの、地域との関連性が薄く、本人本位で話し合われた介護計画書にはなっていない。	○	地域で暮らし続けることを前提に、家族や関係者各位との連携を図り、支えていくためには何が必要かを利用者本位で検討した上で、自分らしい暮らしの継続が保障された個別介護計画書となるよう期待したい。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	随時の情報確認と家族や利用者の要望を取り入れ3か月に一度の見直しと状況に応じた見直しが行われ介護計画が作成されている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	事業所の多機能性を生かし、利用者や家族の状況に応じて、通院や送迎等必要な支援を行い、利用者及び家族の安心感を高める努力が行われている。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族が希望するかかりつけ医となっている。基本的には、ホームの主治医が週に一度回診を行う。状態次第では通院となるが、家族の協力をもらいつつ不可能な時には職員が代行し病院の協力を得ながら受診できるよう支援を行っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末ケアについて、利用者、家族との話し合いを適切に行い、かかりつけ医との協議も行っている。しかし、看取り介護が適切にできる体制を築くには職員の配置状況上難しく、また、職員の不安も大きいことから隣接する施設へ移動するケースが主となっている。	○	終末に対する対応指針を定め、多くの関係職種や家族との協議を重ね、利用者の気持ちの変化や家族の気持ちにも注意を払い、簡単にあきらめない支援を期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	自分が言われたら嫌な言葉かけや対応を協議している。また、安易に職員が本人のプライバシーに関することを話さないように徹底した教育がなされている。記録等の個人情報も鍵のかかるキャビネットに保管する等、徹底した管理が行われている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ゆったりとした利用者のペースを大切に、職員の都合に合わせるのではなく、利用者一人ひとりが本来持っている生活ペース（買い物等の外出も含む）への支援がされている。		

宮崎県小林市 グループホームひだまり

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の盛りつけから配膳・下膳が利用者の役割に応じた形で和やかながらメリハリのある支援がされている。職員は介助する一方にならず、利用者と同じ食事を楽しんでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週に3回を基本とし、要望があれば毎日でも入浴ができる体制がある。しかし、全ての入浴が職員主体（曜日、時間等）の支援となっており個人に合わせた入浴の支援にまでは至っていない。	○	職員が入浴日や入浴時間を一方的に決めず、利用者のその日の希望を確認して支援してほしい。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	地元の梅を使い梅干を作ったり、ホームの家庭菜園にて野菜を作ったり、食事全般に利用者全員の役割がある。自分らしさを継続している利用者が多い。職員は利用者個々の力量を見極め、経験や知恵を発揮できる場面をつくり出している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買い物へ週に3回は出向く等、外へ出る機会がとても多い。スーパーや薬局、時に洋菓子店にも足を運んでいる。利用者一人ひとりがこれまでの生活と大きく変わらない暮らしぶりが継続できるように努力している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員の見守りが徹底されている。玄関や居室に限らず鍵は必要最小限（薬剤等の安全管理）以外は開放されている。職員は利用者の状態に合わせ、鍵をかけずに安心して安全に過ごせる工夫を重ねている。		

宮崎県小林市 グループホームひだまり

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署や近隣の消防団の協力を得て月に1回の防災訓練および避難訓練が行われている。隣接している施設および地域の消防団が参加するなど協力関係が確保されている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	隣接する施設の管理栄養士に相談し、指導を受けた栄養のバランスを考えた食事の提供がなされている。献立には旬の物がふんだんに取り入れられ、食事で季節感を感じてもらおう努力もなされている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者や家族、そして来客にとっても居心地の良い清潔感のある共用空間である。自然光が差し込み、風通しの良いこの共用空間は家庭的な雰囲気や壊さず、自然を生かした温かさが伝わってくる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使いなじんだ家具類（いす・机・たんす・三面鏡等）の持ち込みが少ない。ベッド及びたんすは全てホームが準備している。中には、利用者の安全面を重視しすぎるがゆえの殺風景な部屋もあった。	○	利用者が長年使いなじんだ家具や日用品が、家族の協力のもと設えられていくことを期待したい。利用者にとって居心地の良い居室とはどのようなものなのか検証してもらいたい。

※  は、重点項目。